

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1290900669		
法人名	スターツケアサービス株式会社		
事業所名	グループホームきらら船橋宮本(1階)		
所在地	船橋市宮本8-1-22		
自己評価作成日	令和 元年 9月 4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社アミュレット
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階
訪問調査日	令和元年9月12日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

当施設では、年間を通して季節の行事、外出行事などを定期的におこなっております。毎月定期的に、2~3組のボランティアの方たちに訪問していただいております。ご利用者に和太鼓を実際に和太鼓を叩いてもらったり、コカリナの演奏を楽しんでいただいたりしています。職員の介護福祉士資格所得率が60%です。ご利用者に対してより良いサービスが提供できるように日々職員皆で努めております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

当ホームでは毎月定期的に和太鼓やコカリナのボランティアを受け入れているほか、各ユニットでフラワーミュージアムまでの外出や近隣レストランへの外出、2週間に一度移動店舗のパン屋がホーム前に立ち寄り、利用者もパンの買い物を楽しめるように取り組むなど利用者の楽しみの拡充に努めています。また、地域の八百屋やお米屋とのつながりも継続しており地域とも良好な関係を築いています。今後は家族参加型の外出行事やホームの目標の一つに掲げている保育園や幼稚園、小中学校との交流、さらには自治会や民生委員との交流も深め地域交流のさらなる充実を目指しています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1290900669		
法人名	スターツケアサービス株式会社		
事業所名	グループホームきらら船橋宮本(2階)		
所在地	船橋市宮本8-1-22		
自己評価作成日	令和 元年 9月 4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社アミュレット
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階
訪問調査日	令和元年9月12日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>当施設では、年間を通して季節の行事、外出行事などを定期的におこなっております。毎月定期的に、2~3組のボランティアの方たちに訪問していただいております。ご利用者に和太鼓を実際に和太鼓を叩いてもらったり、コカリナの演奏を楽しんでいただいたりしています。職員の介護福祉士資格所得率が60%です。ご利用者に対してより良いサービスが提供できるように日々職員皆で努めております。</p>
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>当ホームでは毎月定期的に和太鼓やコカリナのボランティアを受け入れているほか、各ユニットでフラワーミュージアムまでの外出や近隣レストランへの外出、2週間に一度移動店舗のパン屋がホーム前に立ち寄り、利用者もパンの買い物を楽しめるように取り組むなど利用者の楽しみの拡充に努めています。また、地域の八百屋やお米屋とのつながりも継続しており地域とも良好な関係を築いています。今後は家族参加型の外出行事やホームの目標の一つに掲げている保育園や幼稚園、小中学校との交流、さらには自治会や民生委員との交流も深め地域交流のさらなる充実を目指しています。</p>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に、企業理念の唱和をおこなっています。	企業理念、運営理念、7つの行動指針を明示し全職員間で共有化に努めています。今年度の事業計画書に事業所スローガンである「和と動」を掲げています。スローガン達成に向けた具体的な計画も明示し実践につなげることができています。	今年度の事業所のスローガンについて職員全体に再度周知を図り、全体で共有化が図られることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に1回、近所の開催されている認知症カフェにいらっています。	地域との交流では毎月近隣で開催している認知症カフェに利用者と一緒に参加をしています。また、和太鼓、コカリナのボランティアの受け入れ、近隣の八百屋や米屋、ケーキ屋、移動店舗のパン屋を活用し交流を広げています。	ホームの目標の一つに掲げている保育園や幼稚園、小中学校との交流、さらには自治会や民生委員との交流も深め地域交流の充実が図られることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の時に認知症サポーター養成講座を開催しました。(6月度)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催しています。自施設の運営状況などを報告しています。ご家族の意見交換などもおこなわれています。	会議には利用者家族、ホームの職員、地域包括支援センターの参加を受け2ヶ月に一度定期開催しています。会議では職員及び利用者状況、事故報告、行事報告のほか参加者との意見交換を通じてサービス向上に努めています。	2ヶ月に一度定期開催していますが、会議への参加者が家族の方のみとなっていることもあり、地域関係者の出席を増やしより充実した会議になることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から密に連絡はなかなかはとれていません。運営推進会議ご案内や、事故が発生した時の連絡、報告などになります。	令和元年8月に実地指導を受け、直接指導を仰ぐほか、事故報告提出の際などに直接助言を頂くなど協力関係を築き運営を進めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を構成して3月に一回会議をおこなっている。身体拘束をおこなわないよう取り組んでいます。昨年の離接事故以来、玄関の施錠は継続しています。	身体拘束をしないケアの実践に向け、ホーム長と各ユニットのリーダーで構成される身体拘束廃止委員会を3ヶ月に一度実施し各ユニットの状況を確認しています。また身体拘束に該当するかについて実地指導の際にも市の担当課に確認しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間の研修計画に基づいて研修をおこなっております。虐待に関して学び、理解してもらう機会を設けています。		

グループホームきらら船橋宮本(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間の研修計画に基づいて研修をおこなっております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約の時に説明をおこない、理解をしていただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議開催時にご利用者、ご家族の意見、要望をお聞きする機会も設けております。	利用者からの意向等については日常会話から収集しています。また家族からは面会に訪れた際に直接確認しています。現在家族から職員紹介(顔写真付き)の再開の要望が出ており、ホームとしても再開方法を検討しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の全体会議、ユニット会議をおこなっております。 管理者は職員の意見や提案を聞く機会を設けています。	各ユニットリーダーが中心となり職員からの意見や要望を確認しており、各リーダーからホーム長へ報告する仕組みとしています。職員の補充やレクリエーションの充実など職員からの意見を参考に改善に向け努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社全体で取り組んでおります。 年2回の評価(パート・アルバイトは1回)を置かれています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社全体で取り組んでおります。 外部研修への参加もサポートしております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	船橋市のグループホーム連絡会に入会しております。 会合への参加はしておりますが、研修会や交流会への参加はなかなかおこなえておりません。		

グループホームきらら船橋宮本(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のご本人、ご家族との面談時に困っていること、不安なこと、要望などをしっかりと把握するように努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のご本人、ご家族との面談時に困っていること、不安なこと、要望などをしっかりと把握するように努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前のご本人、ご家族との面談時に困っていること、不安なこと、要望などをしっかりと把握するように努めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援、援助をしっかりと見極めてサービスを提供で切るように努めております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者の心身の状況の合わせて、ご家族と連携を図りながら対応しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族が施設へ来られやすい雰囲気づくりに努めています。	利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないような支援では、ホームの電話で友人や家族と連絡を取ったり、誕生日のお祝いに家族や親類が訪れ祝福する等、これまでの関係が途切れないように支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士がトラブルなどにならないように職員同士が連携を図りながら見守っています。		

グループホームきらら船橋宮本(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了されても状況に応じて対応させていただきます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々、ご利用者と接しながら思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。ユニット会議や担当者会議での確認し対応に努めています。	利用者の思いや意向については日常会話からの収集のほか、ケアプラン作成及び見直し時のアセスメントを通じて確認しています。利用者の思いや意向はケアプランに反映し、日々の支援に生かせるように取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人、ご家族との面談をおこないこれまでの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前にご本人、ご家族との面談をおこないこれまでの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議や担当者会議で話し合いをおこなっています。ご家族、関係者への参加連絡をおこなっています。	アセスメントで抽出した課題を踏まえて担当者会議を開催し、職員や家族、主治医等の意見を総合的に踏まえてケアプランを作成し利用者本人及び家族の同意を受領しています。ケアプランは毎月モニタリングを行い6ヶ月毎見直しを行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録、業務日誌や支援経過などに記録しています。申し送り時に報告し職員同士で情報共有をおこなうようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者、ご家族の要望に応じて対応しています。他サービスの導入もおこなっています。		

グループホームきらら船橋宮本(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月2～3組のボランティアが訪問しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の訪問診療を受けています。医療、看護、薬局と連携を図りながら対応しています。	ホーム協力医療機関の主治医による月2回の往診のほか、協力医療機関内の訪問看護とも連携を図り、必要な医療を受けられる体制を築いています。協力医療機関とは24時間連絡が取れる体制であり、緊急時に迅速な対応を可能としています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1回/週の訪問看護で健康管理をおこなっています。医療、看護とは24時間体制で連絡、相談できるようになっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は定期的な訪問をおこない、ご家族、医師、看護師、相談員の方たち連携を図りながら対応しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	その時のご利用者の心身の状況により、ご家族、医療と相談しながら対応をさせていただきます。	重度化した場合や終末期のあり方については契約時に「重度化した場合の対応に関わる指針」を説明し「医療連携体制加算同意書」を交わしています。ホームでは主治医、訪問看護、家族等と連携し、終末期ケアまで対応する体制としています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間の研修計画に基づいて研修をおこなっております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間の研修計画に基づいて研修をおこなっております。	平成31年3月に消防署立会いの下での避難訓練を実施しています。令和元年9月にも夜間を想定した自主避難訓練を予定しています。災害備蓄品をホーム2階で保管しているほか災害時のフローについても改訂し非常災害時に備えています。	

グループホームきらら船橋宮本(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年間の研修計画に基づいて研修をおこなっております。	毎月実施している施設内勉強会の中で虐待防止や利用者のコミュニケーション技術等をテーマにした研修を取り入れ職員の意識を高め、利用者に対して不適切な対応が無いように取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中でご利用者の思いや希望を聞き取れるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者一人ひとりのペースを大切にして支援、援助がおこなえるように職員は一人ひとり努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床更衣時はしっかりと整容をおこない、その人らしい身だしなみをおこなうようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合ったメニューやご利用の好みに合わせたメニュー作りをおこなっています。準備や後片付けもおこなっています。	食事の準備ではできる限り利用者にもかかわって頂き準備や後片付けを進めています。食事を楽しむ工夫では全員で外食に出かけたり、2週間に一度移動店舗のパン屋がホーム前に立ち寄り、利用者も買い物を楽しめる形式を取り入れています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その日の食事、水分の摂取量の確認、記録をおこなっています。 ご利用者によってペースト食の提供もおこなっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご利用者一人ひとり口腔ケアをおこなっています。 ご利用者の状況に応じて介助もおこなっています。		



グループホームきらら船橋宮本(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立されている利用者もいます。定期的に声掛け誘導でおこなっているご利用者もいます。	利用者の一人ひとりの排泄状況は「生活リズム・パターンシート」に記録し、職員全体で共有しています。排泄はトイレを基本とし、定時の声かけや誘導によりトイレで排泄できるように支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の確認をおこない、状況に応じて下剤の内服対応しています。乳製品の提供をおこなっています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望に応じて入浴をおこなっています。	入浴については体調を考慮し週に2回入浴できるように支援しています。入浴中は職員が介助につき安全に入浴できるように支援しています。拒否の場合には足湯で対応する等、無理強いせず対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者一人ひとりのペースにあわせて入床するように努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問診療時に各ユニットリーダーが同行しご利用者一人ひとりの内服薬、外用薬に関して把握するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人、ご家族からのこれまでの生活歴や馴染みの暮らし方を踏まえて、役割や楽しみが感じられるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	認知症カフェへの参加はおこなっています。近隣への散歩や行事での外出になります。	近隣のレストランへの外食やフラワーミュージアムへの外出等、各ユニット毎で外出計画を立て戸外に出かけられるよう取り組んでいます。また日常的にもホーム周辺の散歩を取り入れ、戸外活動の充実を努めています。	外出行事も少しづつ取り入れながら利用者の生活の幅の拡充に努めています。今後は家族参加型の外出行事なども検討しておりさらなる取り組みの充実を期待します。

グループホームきらら船橋宮本(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物などの支援はおこなえますが、現金に関しては事務所内で管理させていただいております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話を希望される方は現在いません。ご家族からの電話はお繋ぎしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある共用空間づくりを心掛けています。	利用者が集うリビングルームは華美な装飾は避け、季節の花を飾り、家庭的で季節感が感じられる雰囲気を保っています。浴室やトイレなども清潔に保ち、転倒の危険になるものは放置せず安全面にも配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事中以外は席を決めず、自由に過ごしていただいています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は照明器具、エアコン、備え付けのクローゼットのみになります。ご本人、ご家族で相談しながら居室内の準備はいただいています。	居室内でも居心地良く過ごせるように、これまで使い慣れた愛用品や馴染みの物の持ち込みを可能としています。居室掃除も定期的実施し、衛生面も保たれています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが安全で自立した生活が送れる環境づくりに努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に、企業理念の唱和をおこなっています。	企業理念、運営理念、7つの行動指針を明示し全職員間で共有化に努めています。今年度の事業計画書に事業所スローガンである「和と動」を掲げています。スローガン達成に向けた具体的な計画も明示し実践につなげることができています。	今年度の事業所のスローガンについて職員全体に再度周知を図り、全体で共有化が図られることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に1回、近所の開催されている認知症カフェにいらっています。	地域との交流では毎月近隣で開催している認知症カフェに利用者と一緒に参加をしています。また、和太鼓、コカリナのボランティアの受け入れ、近隣の八百屋や米屋、ケーキ屋、移動店舗のパン屋を活用し交流を広げています。	ホームの目標の一つに掲げている保育園や幼稚園、小中学校との交流、さらには自治会や民生委員との交流も深め地域交流の充実が図られることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の時に認知症サポーター養成講座を開催しました。(6月度)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催しています。自施設の運営状況などを報告しています。ご家族の意見交換などもおこなわれています。	会議には利用者家族、ホームの職員、地域包括支援センターの参加を受け2ヶ月に一度定期開催しています。会議では職員及び利用者状況、事故報告、行事報告のほか参加者との意見交換を通じてサービス向上に努めています。	2ヶ月に一度定期開催していますが、会議への参加者が家族の方のみとなっていることもあり、地域関係者の出席を増やしより充実した会議になることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から密に連絡はなかなかはとれていません。運営推進会議ご案内や、事故が発生した時の連絡、報告などになります。	令和元年8月に実地指導を受け、直接指導を仰ぐほか、事故報告提出の際などに直接助言を頂くなど協力関係を築き運営を進めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を構成して3月に一回会議をおこなっている。身体拘束をおこなわないように取り組んでいます。昨年の離接事故以来、玄関の施錠は継続しています。	身体拘束をしないケアの実践に向け、ホーム長と各ユニットのリーダーで構成される身体拘束廃止委員会を3ヶ月に一度実施し各ユニットの状況を確認しています。また身体拘束に該当するかについて実地指導の際にも市の担当課に確認しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間の研修計画に基づいて研修をおこなっております。虐待に関して学び、理解してもらう機会を設けています。		

グループホームきらら船橋宮本(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間の研修計画に基づいて研修をおこなっております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約の時に説明をおこない、理解をしていただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議開催時にご利用者、ご家族の意見、要望をお聞きする機会も設けております。	利用者からの意向等については日常会話から収集しています。また家族からは面会に訪れた際に直接確認しています。現在家族から職員紹介(顔写真付き)の再開の要望が出ており、ホームとしても再開方法を検討しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の全体会議、ユニット会議をおこなっております。 管理者は職員の意見や提案を聞く機会を設けています。	各ユニットリーダーが中心となり職員からの意見や要望を確認しており、各リーダーからホーム長へ報告する仕組みとしています。職員の補充やレクリエーションの充実など職員からの意見を参考に改善に向け努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社全体で取り組んでおります。 年2回の評価(パート・アルバイトは1回)を置かれています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社全体で取り組んでおります。 外部研修への参加もサポートしております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	船橋市のグループホーム連絡会に入会しております。 会合への参加はしておりますが、研修会や交流会への参加はなかなかおこなえておりません。		

グループホームきらら船橋宮本(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のご本人、ご家族との面談時に困っていること、不安なこと、要望などをしっかりと把握するように努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のご本人、ご家族との面談時に困っていること、不安なこと、要望などをしっかりと把握するように努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前のご本人、ご家族との面談時に困っていること、不安なこと、要望などをしっかりと把握するように努めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援、援助をしっかりと見極めてサービスを提供で切るように努めております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者の心身の状況の合わせて、ご家族と連携を図りながら対応しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族が施設へ来られやすい雰囲気づくりに努めています。	利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないような支援では、ホームの電話で友人や家族と連絡を取ったり、誕生日のお祝いに家族や親類が訪れ祝福する等、これまでの関係が途切れないように支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士がトラブルなどにならないように職員同士が連携を図りながら見守っています。		

グループホームきらら船橋宮本(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了されても状況に応じて対応させていただきます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々、ご利用者と接しながら思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。ユニット会議や担当者会議での確認し対応に努めています。	利用者の思いや意向については日常会話からの収集のほか、ケアプラン作成及び見直し時のアセスメントを通じて確認しています。利用者の思いや意向はケアプランに反映し、日々の支援に生かせるように取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人、ご家族との面談をおこないこれまでの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前にご本人、ご家族との面談をおこないこれまでの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議や担当者会議で話し合いをおこなっています。ご家族、関係者への参加連絡をおこなっています。	アセスメントで抽出した課題を踏まえて担当者会議を開催し、職員や家族、主治医等の意見を総合的に踏まえてケアプランを作成し利用者本人及び家族の同意を受領しています。ケアプランは毎月モニタリングを行い6ヶ月毎見直しを行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録、業務日誌や支援経過などに記録しています。申し送り時に報告し職員同士で情報共有をおこなうようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者、ご家族の要望に応じて対応しています。他サービスの導入もおこなっています。		

グループホームきらら船橋宮本(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月2～3組のボランティアが訪問しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の訪問診療を受けています。医療、看護、薬局と連携を図りながら対応しています。	ホーム協力医療機関の主治医による月2回の往診のほか、協力医療機関内の訪問看護とも連携を図り、必要な医療を受けられる体制を築いています。協力医療機関とは24時間連絡が取れる体制であり、緊急時に迅速な対応を可能としています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1回/週の訪問看護で健康管理をおこなっています。医療、看護とは24時間体制で連絡、相談できるようになっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は定期的な訪問をおこない、ご家族、医師、看護師、相談員の方たち連携を図りながら対応しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	その時のご利用者の心身の状況により、ご家族、医療と相談しながら対応をさせていただきます。	重度化した場合や終末期のあり方については契約時に「重度化した場合の対応に関わる指針」を説明し「医療連携体制加算同意書」を交わしています。ホームでは主治医、訪問看護、家族等と連携し、終末期ケアまで対応する体制としています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間の研修計画に基づいて研修をおこなっております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間の研修計画に基づいて研修をおこなっております。	平成31年3月に消防署立会いの下での避難訓練を実施しています。令和元年9月にも夜間を想定した自主避難訓練を予定しています。災害備蓄品をホーム2階で保管しているほか災害時のフローについても改訂し非常災害時に備えています。	

グループホームきらら船橋宮本(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年間の研修計画に基づいて研修をおこなっております。	毎月実施している施設内勉強会の中で虐待防止や利用者のコミュニケーション技術等をテーマにした研修を取り入れ職員の意識を高め、利用者に対して不適切な対応が無いように取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中でご利用者の思いや希望を聞き取れるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者一人ひとりのペースを大切にして支援、援助がおこなえるように職員は一人ひとり努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床更衣時はしっかりと整容をおこない、その人らしい身だしなみをおこなうようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合ったメニューやご利用の好みに合わせたメニュー作りをおこなっています。準備や後片付けもおこなっています。	食事の準備ではできる限り利用者にもかかわって頂き準備や後片付けを進めています。食事を楽しむ工夫では全員で外食に出かけたり、2週間に一度移動店舗のパン屋がホーム前に立ち寄り、利用者も買い物を楽しめる形式を取り入れています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その日の食事、水分の摂取量の確認、記録をおこなっています。 ご利用者によってペースト食の提供もおこなっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご利用者一人ひとり口腔ケアをおこなっています。 ご利用者の状況に応じて介助もおこなっています。		



グループホームきらら船橋宮本(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立されている利用者もいます。定期的に声掛け誘導でおこなっているご利用者もいます。	利用者の一人ひとりの排泄状況は「生活リズム・パターンシート」に記録し、職員全体で共有しています。排泄はトイレを基本とし、定時の声かけや誘導によりトイレで排泄できるように支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の確認をおこない、状況に応じて下剤の内服対応しています。乳製品の提供をおこなっています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望に応じて入浴をおこなっています。	入浴については体調を考慮し週に2回入浴できるように支援しています。入浴中は職員が介助につき安全に入浴できるように支援しています。拒否の場合には足湯で対応する等、無理強いせず対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者一人ひとりのペースにあわせて入床するように努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問診療時に各ユニットリーダーが同行しご利用者一人ひとりの内服薬、外用薬に関して把握するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人、ご家族からのこれまでの生活歴や馴染みの暮らし方を踏まえて、役割や楽しみが感じられるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	認知症カフェへの参加はおこなっています。近隣への散歩や行事での外出になります。	近隣のレストランへの外食やフラワーミュージアムへの外出等、各ユニット毎で外出計画を立て戸外に出かけられるように取り組んでいます。また日常的にもホーム周辺の散歩を取り入れ、戸外活動の充実を努めています。	外出行事も少しづつ取り入れながら利用者の生活の幅の拡充に努めています。今後は家族参加型の外出行事なども検討しておりさらなる取り組みの充実を期待します。

グループホームきらら船橋宮本(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物などの支援はおこなえますが、現金に関しては事務所内で管理させていただいております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話を希望される方は現在いません。ご家族からの電話はお繋ぎしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある共用空間づくりを心掛けています。	利用者が集うリビングルームは華美な装飾は避け、季節の花を飾り、家庭的で季節感が感じられる雰囲気を保っています。浴室やトイレなども清潔に保ち、転倒の危険になるものは放置せず安全面にも配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事中以外は席を決めず、自由に過ごしていただいています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は照明器具、エアコン、備え付けのクローゼットのみになります。ご本人、ご家族で相談しながら居室内の準備はいただいています。	居室内でも居心地良く過ごせるように、これまで使い慣れた愛用品や馴染みの物の持ち込みを可能としています。居室掃除も定期的を実施し、衛生面も保たれています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが安全で自立した生活が送れる環境づくりに努めています。		